地域色豊かな古墳を巡る

古墳は、今からおおよそ1800年前から1300年前に造られた、その土地の支配者が眠るお墓です。三重は大和（やまと）（今の奈良県）の隣にあり、交通の要所として、また、ヤマト政権が東へ勢力を広げる足がかりとして重要な地域でした。県内には、大小合わせて7000基もの古墳があります。古墳の規模や形、出土した埴輪（はにわ）(1)から、地域ごとの営みやヤマト政権との関係が見えてきます。

はるか遠い昔を想うとき、残された古墳や遺物が、歴史と私たちを繋いでくれるのです。今回は、国・県指定の古墳のなかから、地域の特色がよく表れているものを選出しました。それぞれの古墳に詳しい方にガイドをお願いしながら、三重の古墳を巡りました。

取材協力／三重県埋蔵文化財センター

取材・文／椋木 敬子
写真／松原 豊・山羽 宏樹
編集／武田 美穂
※印の写真は取材先から提供していただきました

名張市の馬塚古墳（美旗古墳群）。前方後円墳の後円部を眺めた風景

本特集に出てくる古墳に関連する用語をまとめました。辞書代わりにご利用ください。

(1) **埴輪**（はにわ）…古墳の上や周りに並べられた土の焼物。当時の生活の様子や、年代、被葬者の身分を知る手がかりになる。

(2) **首長**（しゅちょう）…地域を治める支配者。

(3) **前方後円墳**（ぜんぽうこうえんふん）…円形の丘と方形の丘が接続した形の古墳。現在は、後ろにあたる円形の部分を後円部、前にあたる方形の部分を前方部と呼んでいる。ヤマト政権の大王（だいおう）やその一族、地方の有力首長にのみ造ることができた古墳。

(4) **墳丘**（ふんきゅう）…土や石を高く盛って築いた丘で、首長を埋葬しているところ。

(5) **段築**（だんちく）…墳丘を階段のように造ること。2段から3段で造られている。

(6) **葺石**（ふきいし）…墳丘の表面に敷き詰められた石。墳丘が崩れるのを防ぐ役割と、遠くからでも古墳を見つけやすくする目的もある。

(7) **周濠（溝）**（しゅうごう）…墳丘の周囲を巡る濠（溝）。外との境界線でもあり、また灌（かん）漑（がい）にも利用された。

(8) **外堤**（がいてい）…周濠（溝）の外側に、土で盛られた土手。

(9) **造出**（つくりだし）…古墳に設けられた突出部。儀式が行われる場所であったといわれる。

(10) **須恵器**（すえき）…5世紀後半からつくられた、青灰色で硬い土器。食器としても使われていた。

(11) **土橋**（どばし）…墳丘と造出を結ぶ通路。宝塚古墳での発見が、全国で初めて。

伊賀市佐那具町

木々に守られてきた
三重県一大きい前方後円墳

御墓山古墳

さまざまな種類の樹木が古墳を守り続けている

伊賀市佐那具町、大和街道と呼ばれる国道25号線の南側に、国史跡 御墓山古墳があります。全長188メートル、三重県で最も大きな前方後円墳です。

訪ねたのは田植えのころ。田の向こうに、木が生い茂った小山を見つけることができました。道路に沿って近づくと、コンクリートの壁に御墓山古墳の案内板が貼ってあります。そのすぐ横が、古墳への入口です。墳丘(4)を歩きながら、伊賀市教育委員会事務局 文化財課の眞名井 孝政さんに話を伺いました。

「この古墳は、丘陵地の裾野を掘り、盛土を加えて形を整えながら造ったと考えられています。自然の地形を利用して、労力を抑えながら造ったのでしょう」と、眞名井さん。

御墓山古墳は、東海地方のなかでも、傑出した規模を誇ります。その大きさから、5世紀前半に巨大な力を持った首長(2)が存在し、伊賀北部地域全体の力を結集して造ったと推察されています。

「佐那具地域は、畿内から大和街道を使い、東国へ入るためのルート上にあり、まさに交通の要所として栄えたところです。力をつけた首長が権力を見せつけるために、これだけ大きな古墳を造ったのでしょう」。

御墓山古墳では発掘調査は行われていませんが、御墓山古墳に伝わる蓋形埴輪の破片などが残されています。蓋形埴輪は、高貴な人にさしかける日除けの「かさ」を表します。このことからも、権力のある首長の存在がわかります。

実際に墳丘を歩くと、その大きさを実感できます。入口は前方部の裾野あたり。そこからのぼっていくと、段築(5)であることがはっきりわかります。眞名井さんの「古墳では下を見て歩きましょう」の言葉を受けて足元に目をやると、地面の合間に葺石(6)がありました。

山の一部を利用して造られた。写真中央部が古墳 ※

「ぜひ見にきて」と眞名井さん

赤彩(せきさい)が残る蓋形埴輪の破片

地面の下には葺石が多く残っている

前方部をのぼっていくと、段築がわかる

「御墓山古墳の保存状態が良いのは、葺石がしっかり敷き詰められ、墳丘が崩れないからです。今でも前方部の角が、尾根のような形を残しています。また、林のように立つ木の根が、土が流れるのをとめています」。

前方部をのぼりきると、広場のような平坦面が現れます。木々の合間から光が差し込み、思った以上に明るく感じます。鳥のさえずりや葉音を耳にすると、まるで森林浴に来ているかのようです。眞名井さんが前方を指差し、「あの盛り上がったところが後円部です」と教えてくれました。近づいていくと、平坦面が少しずつ狭まり、前方部と後円部の境がくびれているのがわかります。これだけ木が生い茂っていても、墳丘を歩くと前方後円墳の形状がわかることに驚きます。

「この古墳を後世に伝えるには、いろいろな人に知ってもらうことが大切です。知ることで、残すことの重要さをわかってもらえると思います。ぜひ、多くの人に来てほしいですね」と眞名井さん。春から初夏は新緑を、夏は避暑に、秋は少しですが紅葉も楽しめるとのこと。自然のなかで静かに守られてきた古墳へ、足を運んでみませんか。

(古墳)伊賀市佐那具町1407ほか

お問い合わせ
伊賀市教育委員会事務局 文化財課
TEL0595・47・1285

名張市美旗町

馬塚古墳

《美旗古墳群》

前方後円墳の形がはっきりわかる地域に愛され続ける古墳

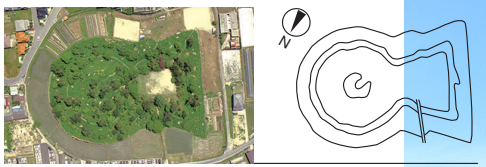
三重県で2番目に大きい、全長142メートルの馬塚古墳

伊賀地方の南部にある国史跡 美旗古墳群は、首長の墓が一代ずつ連続して造られたことがわかる古墳群です。5基の前方後円墳があり、出土品や墳丘形式の変化から、4世紀から6世紀前半にかけて順に造られてきたことがわかっています。「昔は病気や争いによって、相続が途絶えてしまうことがほとんどでした。この地域は、5世代以上の世襲が平和に行われてきたようですね」と教えてくれたのは、名張市の文化財専門員の門田了三さん。美旗古墳群のなかで1番大きい、馬塚古墳に案内してくれました。

場所は、近鉄大阪線・美旗駅の東側。きれいに草刈りされた古墳は、どの方角からも古墳の様子がわかります。「この前方後円墳は、奈良県の古墳と少しスタイルが違います。前方部が低くて後円部が高いのがわかるでしょう。低い方は奈良県の方角。これは『私たちは、ヤマトの大王さまに従っています』という意思表示。畿内に近い名張市は、ヤマト政権の影響が大きかった地域ですから」と門田さん。

1番高い後円部にのぼると、美旗の町を見渡すことができます。「この近くに、大和と東を結ぶ道がありました。道行く人からよく見えるよう、東側の周溝の土手は、西側より低くなっています。少しでも高く見せる工夫です」。首長が古墳の大きさで、権威を示していたことが伺えます。

平らな前方部。向こうに小高い後円部が見える



上空からの全景 ※

後円部の上から、美旗古墳群の一つで最後に造られた貴人塚(きじんづか)古墳の方角を望む

江戸時代に立てられた33の石仏

「いろいろな方角から見て」と門田さん

馬塚古墳は、三重県に残る前方後円墳のなかでも、形がわかりやすいのが特徴です。後円部の項上から見下ろすと、3段の形状がよくわかります。前方部は台形で、先に行くほど広がり、広場のようです。これだけきれいに形が残る理由を、門田さんに伺いました。

「この地域では、江戸時代に新田開発が行われました。その時、古墳を避けたのでしょう。残った古墳は、住民にとって里山です。木を切り、草を刈り、手入れがされたようです」。

墳丘を歩くと、石仏があちらこちらに立っていることに気がつきます。江戸時代の人々は、西国三十三所の霊場を石仏に見立てました。信仰心の厚い人々が、石仏に手を合わせ、古墳を巡る姿が思い浮かびます。

「昔から大切にされてきた古墳を、私たちは後世に引き継がなければなりません。郷土の歴史を子どもたちに伝え、誇りに思ってもらえるように」と門田さん。現在、馬塚古墳は、小学校の遠足や郷土学習の場として、また、近所の人たちの散歩コースなど、地域の身近な存在になっています。ここで生まれ育った人たちの、遠い先祖を敬う心によって守られています。

(古墳)名張市美旗町中1番2ほか

お問い合わせ
名張市教育委員会事務局 文化生涯学習室
TEL 0595・63・7892

美旗市民センター歴史資料室

名張市の歴史・民俗資料を展示する資料室。ここでは、美旗古墳群のなかで2番目に造られた、女良塚(じょろうづか)古墳の家形埴輪を見ることができます。

名張市美旗町南西原229の3　TEL 0595・65・3007

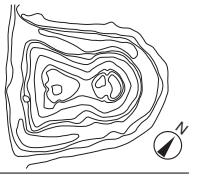
鈴鹿市国府町　鈴鹿川流域を支配した首長の古墳

王塚古墳

《西ノ野古墳群》

西ノ野古墳群の一つ、国史跡王塚古墳は、鈴鹿コミュニティバス・王塚バス停の前にあります。道路沿いの木々の合間から見えるのは、こんもりとした小山。これが古墳だとすぐにわかります。「王塚古墳は、周濠と外堤が盾形に取り巻いているのが特徴です。墳丘に近づくと、周りを巡る堀と土手を見つけることができます。これは、畿内の大王の墓に多い型式。中央政権とのつながりの強さを感じさせます」と話すのは、鈴鹿市考古博物館の藤原 秀樹さんです。

北側から見た古墳。2段になっているのがわかる



全体模型。前方部と後円部が同じ高さ。6世紀の古墳と思われる

王塚古墳は西側がすぐ崖になっていて、その下は鈴鹿川が流れる平野です。昔の人は、畿内から伊賀盆地を抜け、鈴鹿の山を越えて鈴鹿川を下り、東へと向かいました。このあたりから、平野が扇状に広がる要の部分。まさに東国への玄関口、交通の要所として栄えた地域です。「この地を支配していた首長が、権威の象徴として台地の縁に古墳を造りました。当時は、幾何学的なラインが美しく、目立っていたでしょうね」。

王塚古墳には、出土品の記録がありませんが、近くの保子里古墳群の保子里1号墳から金の耳飾りが発掘されています。全国的にも貴重な金製の出土品です。そのレプリカは、鈴鹿市考古博物館で見ることができます。「王塚古墳は、手がかりが少ないだけに、考察する楽しみがあります」と話す、藤原さんの笑顔が印象的でした。

墳丘の裾に周濠の跡がある

金の耳飾りは考古博物館に展示

「考古博物館へ来て」と藤原さん

(古墳) 鈴鹿市国府町13の8
お問い合わせ 鈴鹿市考古博物館 TEL 059・374・1994

鈴鹿市考古博物館

市内で発掘された土器などの出土品を展示。昔の生活や文化を知ることができます。勾玉(まがたま)や土笛づくりの体験学習も行っています。

鈴鹿市国分町224　TEL 059・374・1994

津市安濃町　全国でも珍しい造出付方墳

明合古墳

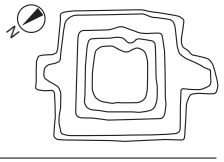
安濃中央総合公園の近くに、珍しい形の古墳があります。方墳といわれる1辺が60メートルの四角い古墳で、両側に長さ約10メートルの造出がくっついています。日本でも屈指の規模を誇る貴重な方墳です。現地に着くと、桜の木々が葉をゆらす向こうに、緑の丘が見えました。

国史跡 明合古墳は、出土した埴輪や須恵器の破片から、5世紀前半の古墳とされています。急な斜面は、約10メートルの高さ以上の迫力。墳丘の上から、経ヶ峰、冬には伊勢湾も望むことができます。明合古墳の形について、津市教育委員会事務局 生涯学習課の藤田 充子さんに話を伺いました。

「古墳時代中期に造られた方墳のなかでこれだけ大きいものは珍しく、明合古墳のほかに、滋賀県の天乞山古墳があげられます。興味深いことに、天乞山古墳にも同じような造出があり、大きさもほぼ一緒です。地図でこの2つの古墳の位置を確認すると、ヤマト政権が東へと勢力を拡大していくためのルート上。何かヤマト政権の政治的な思惑が、この大きさと形に表れている気がします」。

なぜこの形なのか、謎の多い明合古墳。「もし機会があって発掘が行われれば、もっといろんなことがわかるかもしれません。でも大切な史跡ですから、タイムカプセルだと思い、謎も含めて未来へ託しましょうか」と話す藤田さんの言葉には、ロマンがあふれていました。

古墳をぐるっと歩いて周ると、墳丘の裾の角がわかる



上から見た全景。造出があり、段があるのもわかる ※

造出は、墳丘の横に小さくくっついている

墳丘の上から経ヶ峰を望む

(古墳) 津市安濃町田端上野
お問い合わせ 津市教育委員会事務局 生涯学習課 TEL 059・229・3251

津市安濃郷土資料館

安濃地域の歴史資料を展示。明合古墳の模型や、埴輪の破片を見ることができます。

津市安濃町東観音寺51の3　TEL 059・268・5678

※写真提供／津市教育委員会事務局

松阪市宝塚町・光町

国の重要文化財・船形埴輪が出土。はにわ館も必見

宝塚1号墳《宝塚古墳》

平成12年、宝塚1号墳から船形埴輪が発掘され、全国的なニュースになりました。権力の象徴として、船上に大刀や杖の飾りがつけられた、全国にも類例がないものです。

「当時、里山だった古墳を整備する際に、造出の発掘調査が行われました。すると、葺石の下から船の形をした埴輪が、原形に近い状態で出てきたのです。今までに埴輪等に描かれた絵から、存在はわかっていましたが、形で残っていたのは初めて。想像の世界から現実的なものへと、史実が大きく前進しました」と話されるのは、松阪市文化財センターの村田匡さん。村田さんの案内で、宝塚古墳へ向かいます。

※奈良時代までは、太刀を「大刀」と表す

復元された造出には、市民が焼いた埴輪が並べられ、当時の様子を再現している

1号墳と2号墳からなる国史跡 宝塚古墳は、松阪市の市街地から南へ少し離れた丘陵地にあります。発掘調査後、古墳公園として整備されました。伊勢地方で最大の1号墳は、全長111メートルの前方後円墳。調査が行われた造出は、墳丘と土橋でつながっています。土橋の発見は、全国で初めてでした。

1番高い後円部へのぼると、そこは360度のパノラマビュー。西には山々、東には市街地の向こうに伊勢湾が見えます。

「船形埴輪が出土したことで、ここに眠る首長は、船を持っていたと考えられます。古墳時代は、海がもっと内側まで入りこんでいたことや、船形埴輪が外洋航海に可能なつくりをしていることから、知多半島や三河へ船で行き来していたことも十分考えられますね」と村田さん。

1号墳が造られた5世紀前半は、ヤマト政権が西へ東へと進出していた時期です。海に近く、水田耕作が盛んだったこの地域は、ヤマト政権にとって重要拠点だったと思われます。古墳の大きさや埴輪から、かなりの力を持っていた支配者、まさに「伊勢の王」がいたのでしょう。

宝塚古墳では、船形埴輪のほかにも271点の埴輪が出土しています。「復元された本物の埴輪が展示されているので、ぜひ見てください」と村田さん。

次に、松阪市文化財センター内のはにわ館へ足を運びます。

展示室に入ると、船形埴輪が目に飛びこんできます。その堂々とした姿に、時空を超えたロマンを感じずにはいられません。ほかにも、貴重な埴輪をすぐ近くで見ることができます。

「出てきたものを見て、あれこれと想像するのが楽しいんです。誰も知らない世界には、いろいろな物語がありますから」と、村田さん。自分なりの物語を紡ぐことができるのも、謎の多い古墳時代の魅力の一つかもしれません。

（古墳）松阪市宝塚町・光町

お問い合わせ
松阪市文化財センター
TEL 0598・26・7330

模型でも、造出がはっきりわかる

墳丘の上に立つと、はるか昔から栄えていた光景が目に浮かぶ

2号墳は、前方部が極端に小さい帆立貝式古墳

「本物の埴輪を見てください」と村田さん

全長140センチメートル。精巧なつくりの船形埴輪

松阪市文化財センター はにわ館

はにわ館では、宝塚古墳から出土した埴輪の一部を見ることができます。修復された本物の埴輪を、わかりやすい解説とともに展示。当時の暮らしの様子を垣間見ることができます。

松阪市外五曲町1　TEL 0598・26・7330

志摩市阿児町

九州北部とつながりのある横穴式石室がある古墳

おじょか古墳

志摩市東部、太平洋に少し突き出た阿児町志島に、県史跡おじょか古墳があります。築造は5世紀後半で、現在、墳丘の形は残っていません。横穴式石室のみが残ります。「横穴式石室」とは、墳丘の横に入口が設けられた、被葬者を埋葬する部屋のことです。

集落にある道標にそってすすむと、民家へ通じる小道に、古墳への通路があります。少し坂をのぼると、横穴式石室を見つけることができました。

石室の前が「ハ」の字形に開けていて、入口は頭一つ分の高さ。狭い入口からのぞいてみると、中は小部屋のような空間です。石室は、板石を積み重ねて築かれていて、大きな板石もところどころに見られます。「石室の造り方が、九州北部のものとほぼ同じです。九州から来た人たちが造ったとも考えられますね」と教えてくれたのは、志摩市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課の三好 元樹さんです。

古墳時代の三重は、伊賀国・伊勢国・志摩国から成り立っていました。ここ志摩国は、西を山で遮られ、三重のなかでも独立した世界だったと考えられています。海に接した地理や、石室の築造時期、造り方からも、この地域がヤマト政権よりも、九州北部とのつながりを深めていたことが伺えます。「九州北部から瀬戸内海・大阪湾をへて、紀伊半島を周り東へ抜ける海上ルートがあったとすれば、志摩は中継点ですね」と三好さん。

石室の上にのぼると、海が遠くまで見渡せます。はるか昔から船での行き来があった地。その歴史の深さを感じます。

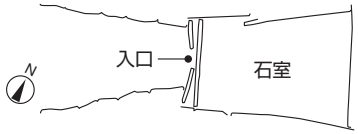
おじょか古墳の出土品からも、九州北部とのつながりが伺えます。矛(長い柄に鉄の刃をつけた武器)の刃が見つかり、そこに錫の板が巻きつけられていました。この錫の板は、熊本のマロ塚古墳でしか見つかっておらず、全国で2例目の発見です。

非常に珍しい埴製枕も発見されています。おじょか古墳に葬られた人の頭をのせた枕と考えられています。土でつくられた枕は、全国的にも少数です。これらは、志摩市歴史民俗資料館で見ることができます。

最後に三好さんは、「古墳時代の研究の魅力は、日本の成り立ちがわかることです。それを考える材料が古墳にあります。古墳は立体的な造形物として残っているので、ぜひ現地に足を運んで見てほしいですね」と話されました。

お問い合わせ
志摩市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課
TEL 0599・44・0339
(古墳)志摩市阿児町志島512の1

崩れずに残る石室内部

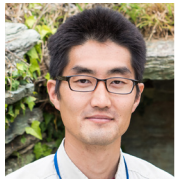


横穴式石室を上から見た図

石室入口の反対から。前方後円墳か円墳かは謎のまま

石室の上から大王崎を望む

九州北部とのつながりを示す、矛の刃


「石室内部ものぞいて」と三好さん

全国でも珍しい貴重な埴製枕

志摩市歴史民俗資料館

古墳から出土した銅鏡(どうきょう)などを数多く展示。古墳から出土したサビてバラバラになった刀などの復元工程を、パネルでわかりやすく説明しています。

志摩市磯部町迫間878の9　TEL 0599・55・2881

板石を積み重ねて造られた横穴式石室(写真真ん中の黒い部分が入口)